

生徒指導だより「こころ」

平成29年6月30日(金)

NO.3 文責 藤本 喜士

6月は「心のきずなを深める月間」です

今月は「心のきずなを深める」取組を全学年で行っています。主に道徳や学活の時間を利用して、

- 1年生では①「小さな一歩」集団の一員としての自覚を持ち、まず自分から目標を持って自己の向上意識を高める、
②「私もいじめた1人なのに」鶴城人権宣言と絡めていじめをしない・許さない意志の向上を図る、
- 2年生では①「リクエスト」誠実であるために責任ある言動を心がけてよりよい人間関係を築く、
②「美しい母の顔」愛情の深さを感じ素直に受け止め、では自分は？と振り返る、
- 3年生では①「ライバル」思いと考えの中で葛藤することを通して、真の友情とは何なのかを学ぶ、
②「ドナーカード」考えても答えを出すことができない自他の命の重さ・尊さを自覚する、

について学習を行ってきました。

子どもたちはこれまで、様々な学習と体験を通して、思いやり、善悪の判断、正義感、責任など、“人”として身につけたい心力を身につけていることと思います。

ですが、いけないとわかっているけれど、その相手・その場・その時・その雰囲気・そのメンバーで・・・など、何かの要因で相手を傷つけてしまうことがどうしてもなくなる。どこかに“隙(すき)”があり未熟なのだと思います。

私自身「カッ」「これぐらい」という思いになると醜い心が顔を出します。その「カッ」「これぐらい大丈夫だろう」というスイッチが入った時に、“ちょっと待て！”とブレーキをかけるように意識しています。みなさんはいかがでしょう？ぜひご家庭でも話題にいただけたらと思います。

毎日楽しく、笑顔で過ごすことができるように、子どもたちとともにさらに心を磨ききずなを深めていきたいと思っています。



居場所づくりが生活の充実度に

先日、気になる記事を見かけましたのでご紹介します。

『2016年12月に全国の15歳から29歳までの男女6000人を対象に実施したインターネット調査の中で“居場所”についても調査を実施。

自分の部屋、家庭、学校、職場、地域、インターネット空間の6つの場所で、それぞれ“自分の居場所だと感じている”かどうかを調べています。その結果、自分の部屋(89.0%)家庭(79.9%)に次いで、インターネット空間(62.1%)を“自分の居場所”と感じている若者が多いことが分かりました。

その下には地域(58.5%)学校(49.2%)と続き、最下位は職場(39.3%)となっています。また、この6つの場において、居場所と感じている場の数が多くなるにつれ生活が充実していると回答した人の割合が高くなっています。』という内容でした。

若者が感じる充実感のバロメーターとして、居心地の良い場所を多く持っていることが重要であることを再認識することができました。が、気になったのはそこではなく、学校と職場よりもインターネット空間を居場所と思っている割合が高かったという点です。



いろいろと良い点はもちろんありますが、心配な点の方が膨らみます。パッと浮かぶ心配な点は

- ①常日頃の学校や職場などの集団の中での人間関係がうまく築けるのか、維持できるのか。
②相手のことがわからない＝何を考えているかわからない。
*事件に巻き込まれないか。

便利な情報機器が私たちの生活を潤している一方で、何か枯渇しているものもあるのではないかと感じた実態調査でした。

薬物はすぐそこに

6月20日に薬剤師の東さんを講師にお迎えして薬物乱用防止教室を行いました。タバコ、麻薬、危険ドラッグなどが身体に与える害についてスライドを使用してとてもわかりやすく教えていただきました。薬物を遠い存在と考えている生徒もいるかと思いますが、すぐそばにあるものもあります。断る勇気、避ける意志を強く持って生活してほしいと思います。



(誘いを断ることができるか！)

